# 小規模校の現状

## 子どもにとっての望ましい学校・学級規模にかかる教育環境アンケート
## ～　連携推進ディレクターの声から　～

### １　授業や学習活動

ア　一人一人の理解度、作業能力に合わせて読み書きや計算等が指導しやすい。
イ　意見発表にかかる時間が少なく、授業時間内で個別指導の時間が確保しやすい。
ウ　教員対児童・生徒が一対一になりやすく、児童・生徒同士の追究を生み出しにくい。
エ　人数の少ない学校･学級では、書写や図画の作品展等に、ほとんどの児童が作品を出展できる。
オ　１学級４～５人では、１グループのみとなり、グループ活動が成立しない。また、関わる人が限られるため多様な意見に触れる事が少なく、幅広い考え方をしにくい。
カ　音楽で合奏する時に、自分の好きな楽器に挑戦することができる。
キ　少人数のため、児童・生徒間で意見交換したり、実証するための行動に発展したりしていくことが少ない。
ク　理科の実験や実習など、全ての児童・生徒が実際に操作することができる。
ケ　１学年１０人以下の中学校では部活動数が２～３にとどまる。小学校から続けてきた集団スポーツ（バレーボール・サッカー・野球など）は断念せざるを得ないことが多くなる。
コ　学習成績、運動能力等の序列がはっきりしてしまい、新しい自分を出す機会や意欲が湧きにくい。

### ２　人間関係や教科外活動

ア　教員が児童・生徒一人一人の顔、名前、性格や家庭状況まで容易に把握でき、様子を見ながら適切な声がけ指導が可能になり、個別相談なども行いやすく、生徒指導の問題が起こりにくい。
イ　学年や先輩後輩といった関係にとらわれず、人間関係が深まりやすい。
ウ　幼い頃からの固定化された仲間関係により、その子の良さや個性に気づくことが少なくなり、人間関係を改善することができにくい。自分の役割が決まってしまっていて、その環境を改善したり、諦めず、意欲を高めたりすることができない場合もある。
エ　児童会・生徒会、部活動等で活躍できる機会が多く、責任感や行動力が育ちやすい。
オ　一人の子への負担が大きくなり、好みや興味、能力に関係なく役割を任されてしまう。
カ　児童・生徒数が減少すると児童会や生徒会の活動も限られ、美化ボランティアや放送など必要な校内活動にも支障が生まれる。
キ　メンバーの固定化の中で、先入観等から任される仕事や役割の分担が変わらず、様々な経験を積むチャンスが少なくなることがある。
ク　教職員の目が届き、手が入りすぎて、子どもが自分で伸びようとする力が育ちにくい。
ケ　少人数だと小回りがきくので社会見学や修学旅行などの計画が組みやすく、一人一人が十分体験しやすくなる。
コ　校外活動や外部との連携活動など臨機応変な対応がとりやすい。
サ　２～３人の学級では、多少、道理が通らないことも許してしまう。トラブルを解消する力や人間関係力を育てることが難しい。
シ　登下校でスクールバスやタクシーを使う子どもが多い学校では、持久力や体力面での向上が難しい側面もある。

## ３　学校経営・運営

ア　普段から教職員のコミュニケーションが円滑に行われ、子ども一人一人を容易に把握していることなどから、形式的な会議を持たなくても学校の意思統一、意思決定がしやすい。

イ　学年１学級だと学年会を設置できないことから指導力を向上させたり、組織的に課題を解決していく手法を磨いたりしていくことが困難で、担任がひとりよがりになったり、指導に行き詰まったりすることもある。中学校では、１教科１教員のため教員の研修等が深まらない。

ウ　教職員の意思疎通が図りやすい。一人一人の意思が学校運営に反映しやすい。

エ　運動会や音楽会などの行事内容の検討に苦慮する。行事を存続させることが難しくなり、保護者や地域の要望に応えるのが難しい。

オ　単級の小学校では児童会や体育係などの校務分掌が集中する高学年教職員の負担が増える。

カ　教員が少ないと教具整頓や環境整備など目が届かない部分ができやすい。

キ　学校運営に必要な校務分担の数は学校規模に関わらず同じであることから、教職員が様々な仕事を経験することにより力量向上につながる面もある。

ク　学級数が少ない中学校では、教科担任一人当たりの持ち時間が少なくなるので、その分、教材研究や個別指導やその他の業務、小中乗り入れ授業などにあたることができる。

ケ　教職員数が少ない中学校では、一人の教員が複数教科を担当することもあり、教材研究が不足したり、深まりに欠けたりする授業が見られることもある。

コ　教職員一人一人の校務分掌が多く、出張も含め負担が大きい。校外研修に出かけにくい。

サ　教職員が少ないため部活数が限られてしまう。

## ４　地域とのかかわり

ア　学校と地域の双方がコンパクトにまとまっていることから、地域と学校の連携事業の意義や成果を確認しやすく、モチベーションも高まるよさがある。

イ　地域での文化、芸能を継承していく上では、道具や用具（太鼓等）数の制限があるため、少人数の方が適している。

ウ　過小規模校では、子どもは地域の宝として特に大切にされる。行事の担い手としても期待されていることで、子どもの意欲が高まることもある。

エ　人数が少ない分、活気が出ない。大人の関わりが大きくなり、子どもが工夫したり、根気強く取り組んだりする経験は限られる。

オ　一人の子が中心になって活躍できる機会が増え、自己肯定感を得やすいことがある。

カ　教職員数が少ないのでＰＴＡや地域の活動などに関わる教職員の負担が大きくなりやすい。

キ　コミュニティースクールが運営しやすく、保護者と住民との連携が図りやすい。

ク　中山間地域では、職場体験学習の受け入れ事業所が決めやすく、地域と密着した学びを進めることができる。地域としても顔の見える交流ができる良さがある。

ケ　教職員の顔と名前を憶えてもらい交流が深まる。